

総合行政ネットワーク (LGWAN)

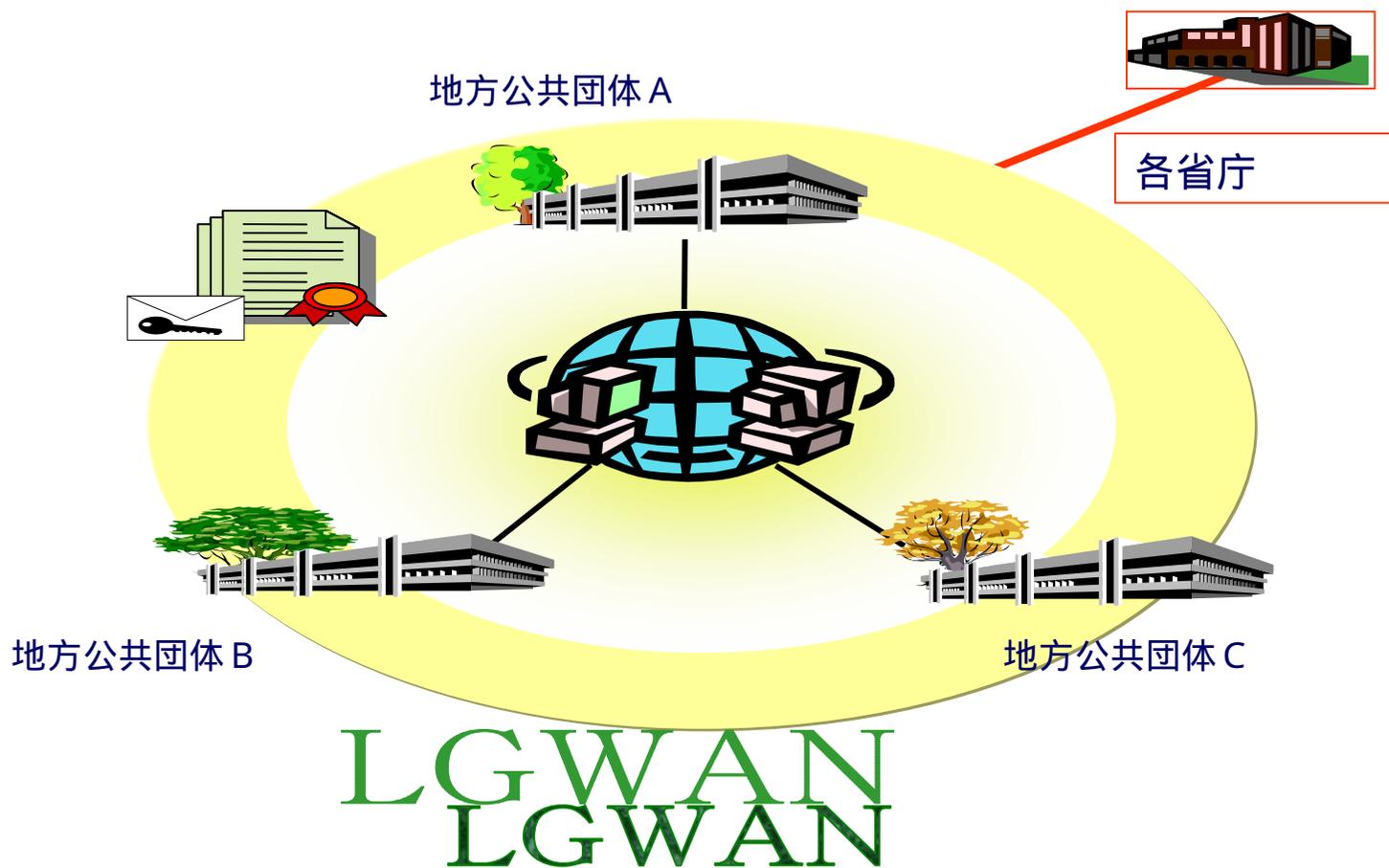
- ・概要
- ・接続形態
- ・構築費用

木曽広域連合 地域創造課 2003.11

総合行政ネットワーク(LGWAN)の考え方



霞が関WAN 霞が関WAN



LGWANを使って何をしようとしているのか？

Local Government Wide Area Network



全国3,300の全地方公共団体と霞ヶ関WANを結ぶ情報通信ネットワーク

1、電子文書交換

・文章の送受信、交換(霞ヶ関WANとの相互接続による電子文書交換)による情報の共有化を図る

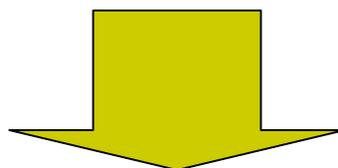
2、各種掲示板

・コンテンツに応じた掲示板サービス

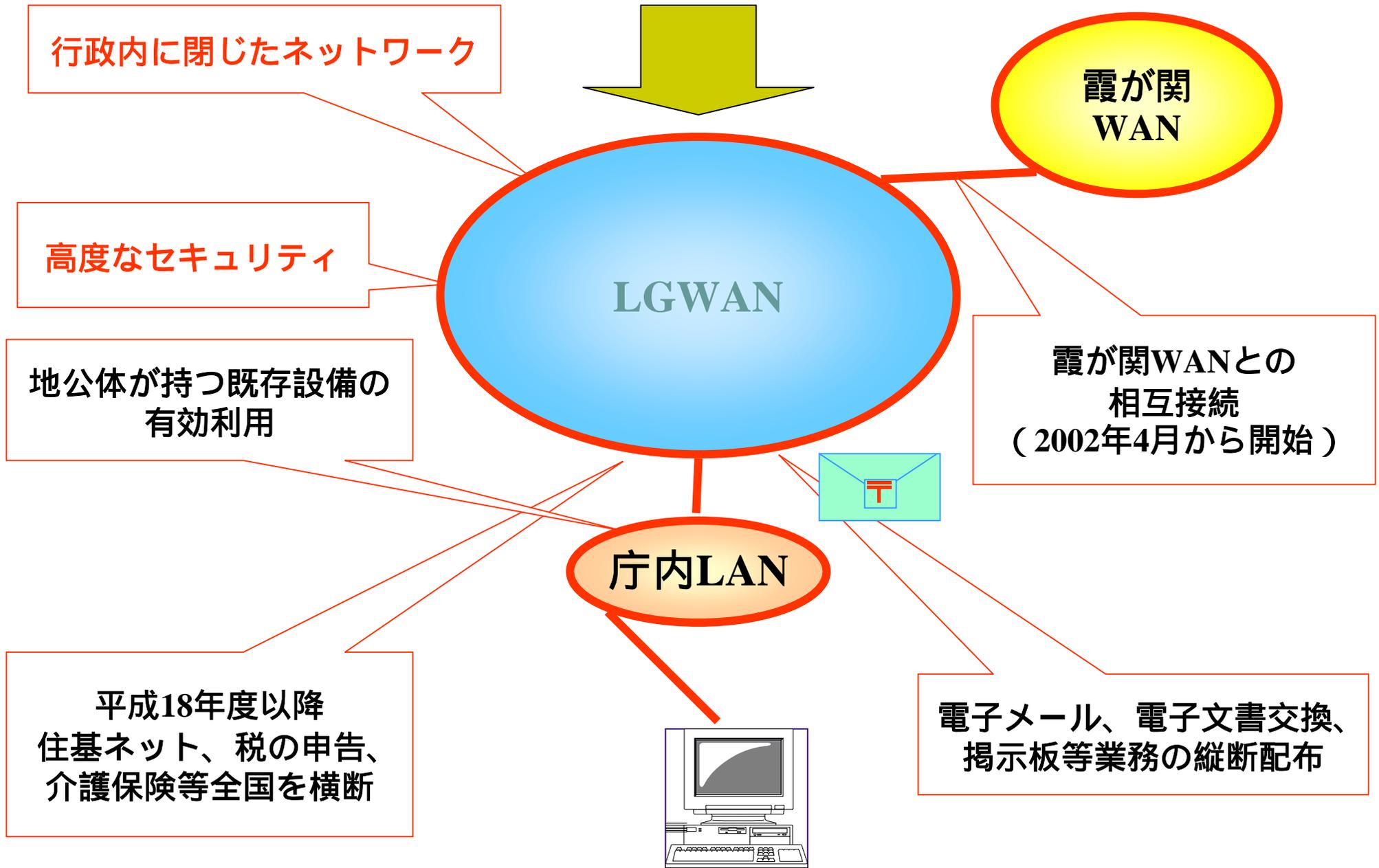
3、教育サービス

WBT教育サービス(Web Based Training)

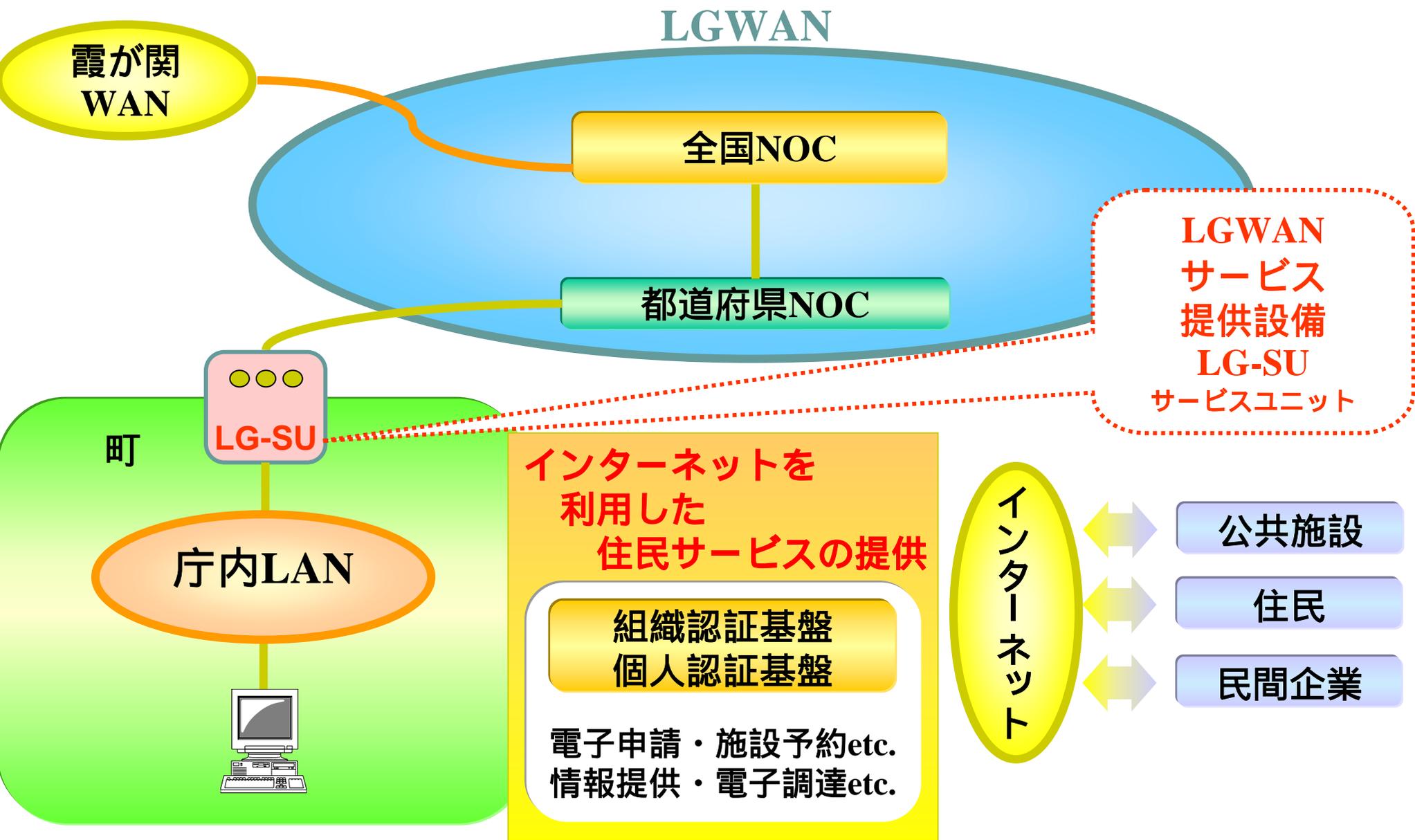
上記サービスを実現するうえで地方自治体を結ぶネットワーク(LGWAN)と各省庁を結ぶ霞ヶ関WANを接続することが重要となり、その先には行政サービスのオンライン化による電子政府・電子自治体の実現をめざしている。



LGWANを使って何をしようとしているのか？イメージ



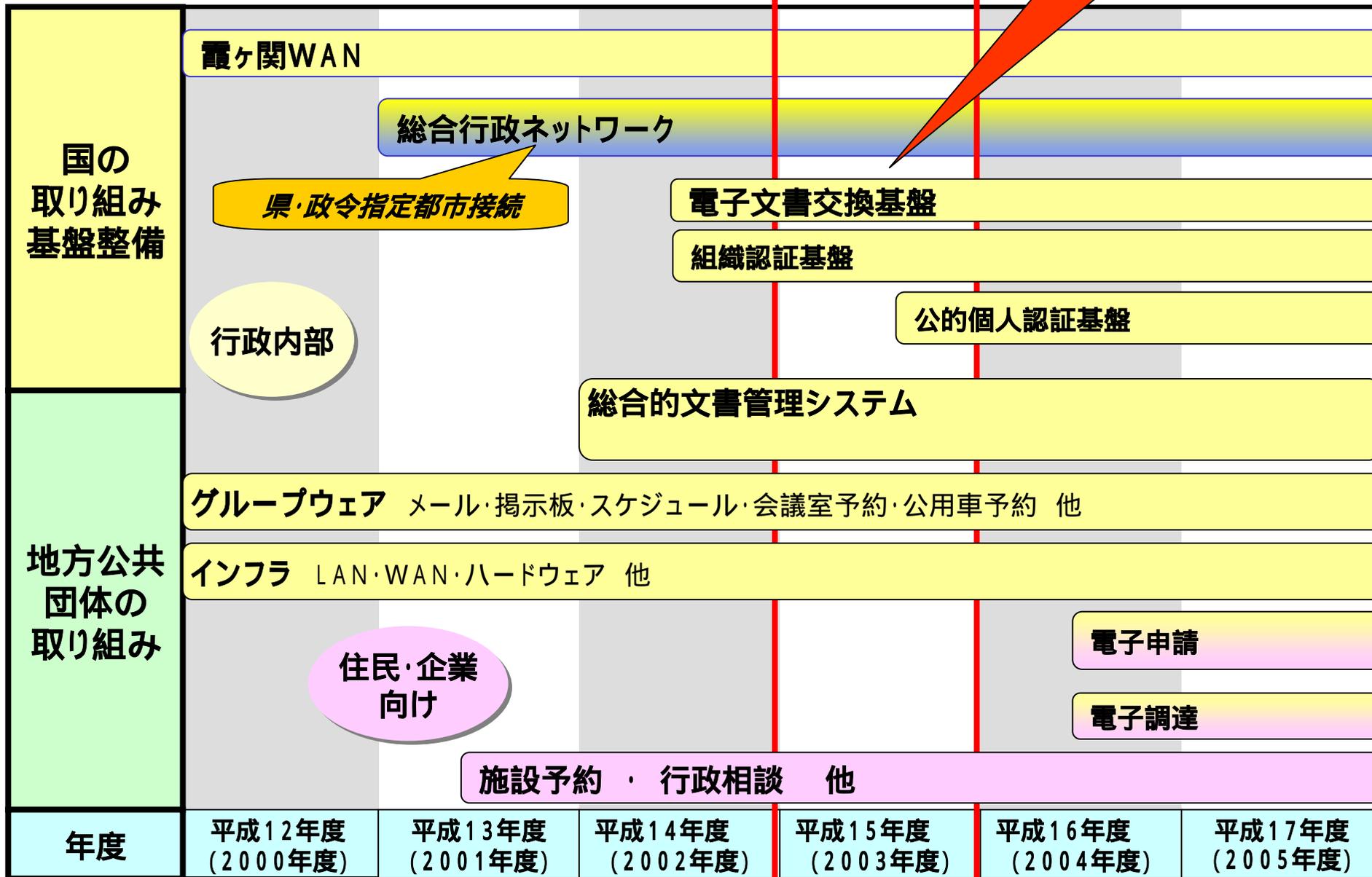
LGWANのネットワーク構成



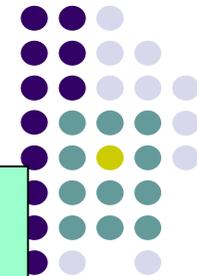
注：総合行政ネットワークパンフレット（LASDEC）を参考に作成

電子自治体構築タイムスケジュール

市町村接続



ネットワーク構築の留意点



1.接続は県NOC(ネットワークオペレーティングセンター)

及びLASDEC(地方自治情報センター全国NOC)とは1対1での接続のこと。

2.接続に関しては、専用線またはNTT等のダーク線等を使用のこと。

3.合併予定市町村は、代表町村接続でよい。

ただし、互いの接続は、専用線であること。

4.構築費用については、平成15年度に限り、特別交付税を配分。

5.機器類に関しては、国が指名する業者より購入のこと。

接続基本パターン

